

(AB)

[JP46-21277Y]

What is claimed is:

A hermetically-sealed container being characterized in that an internal body 7 which has a lower end base portion 3 thereof engaged with an inner peripheral base portion 4 of the bottle neck portion 2, brings a collar peripheral portion 5 formed on a middle portion thereof into contact with a thinnest wall portion of the bottle-neck portion 2, and forms an upper end portion 6 thereof as a spout is inserted into and is fixed to a bottle-neck portion 2 of a container main body 1 which is made of a thermoplastic synthetic resin and is formed in a lid-covered bottomless bottle shape, and a bottom plate body 9 which is made of the same material as the container body is welded to a lower-end-opened peripheral portion 8 of the container main body 1 by ultrasonic welding.

(AB)

2

①Int.CL
B 65 d
②日本分類
133 B 01
132 E 231
133 A 335

日本国特許庁

①実用新案出願公告

昭46-21277

②実用新案公報

③公告 昭和46年(1971)7月22日

(全2頁)

1

2

④密封容器

⑤実 願 昭43-53792
⑥出 願 昭43(1968)6月25日
⑦考 案 者 出願人に同じ
⑧出 願 人 若松義直
小平市喜平町860の1公団住宅
小平団地2-1-406

図面の簡単な説明

第1図は本考案品の縦断面図、第2図は開口状態を示す縦断面図、第3図は開口部の透視斜面図である。

考案の詳細な説明

本考案は、特に清涼飲料、乳製飲料、酒類或はドリンク剤等の飲料を収容する壜体に代る新規型式の容器体を提供しようとするものである。

本考案の特徴とする所は、常時、壜口相当部が外気から全く遮断された衛生的な隠蔽状態下に保形され且通常の壜体に於ける王冠、キャップ等の栓体が存在しない完全な密封体として形成されるにも拘らず、使用に際しては栓抜き等の開栓具を一切必要とすることなしに開栓して飲用に供し得るようにした点に存する。

以下図面に示した実例に従つて本考案の構成を説明すると、本考案は、熱可塑性合成樹脂を素材として形成した有蓋無底の壜状の容器主体1の壜頭部2内に、下端基部3が壜頭部2の内側縁基部4に係合し、中腹部に設けた鉄錆部5が壜頭部2の肉厚に対して最薄状態下に於て当接し、上端部6を注出口として形成した内装体7を挿入固定せしめると共に容器主体1の下端開放周縁部8に、同質の底盤体9を超音波溶着した点を要旨とするものである。

この他図中10は内装体7を貫通する流出孔であり、11は内装体7の上端部6に刻設した螺条にして、11'は該螺条11に対応すべく壜頭部2の内側に形成される螺溝であり、12は容器主体1の下端開放周縁部8と当接する底盤体9の支

承部である。

かかる構成からなる本考案品は、第1図示の記載から明かな如く、壜口に相当する内装体7の上端部8の開口部13は、壜状の容器主体1の天蓋部14によつて完全に包覆されると同時にその底部も収容液を注入充填後、下端開放部8に底盤体9の支承部12を合致せしめて超音波溶着によつて一体的に溶着接合することにより、容器主体はそれ自体栓、蓋等の封減部を一切有しない強固な密封容器体として形造られる結果、使用時に於て後述する容器主体1の壜頭部2を分離しない限りは、収容液が外部へ逸出することを完全に防止し得るものである。

本考案品を使用する際しては、容器主体1を固持した態勢下に於て壜頭部2を摘みこれを捻回する。然るとき、該壜頭部2は、その裏面内周が内側に位置する内装体7の鉄錆部5の尖端に摺接する結果、捻回作動に伴つてこれが切断分離して内装体7の上端部8が露呈する(第2図)。

かかる状態下に於て、内装体7の上端部8の開口部13を飲口としてこれを所謂ラッパ飲みするか、或は開口部13中にストローを挿入するか、又は該開口部13を注出口として収容液を分離した壜頭天蓋部14乃至は別に用意するコップ等に注入して飲用する。

容器主体1内の収容液を一度に飲用しない場合には、容器主体1から分離した壜頭天蓋部14をキャップとしてその内側に形成される螺溝11'と内装体7の突出上端部6に施した螺条11を介して該上端部6に螺合することにより、容器主体1は壜頭部2の分離前と同様の密封容器体として形成される。

尚、本考案の実施に際しては、使用時に於ける壜頭部2の切断分離をより確実にするために、切断捻回時に内装体7の鉄錆部5と摺接する壜頭部2の対応個所に切目15、15を破線状に設けて切断個所を少くするよう成型するも本考案の要旨からなら逸脱するものではない。

以上如く、本考案品は従来の壜体及びその封

(2)

実公 昭46-21277

8

4

試部材による密封容器に比し、その構成、製作、取扱いの上で遙に簡易であることに加え従来の液体容器からは期待することの出来ない留頭記述の著効を發揮するため実用に供して益する処が多大である。

実用新案登録請求の範囲

熱可塑性合成樹脂を素材として形成した有蓋無

底の壺状の容器主体1の壺頸部2内に、下端基部3が壺頸部2の内側縁基部4に係合し、中腹部に設けた鉗縁部5が壺頸部2の肉厚に対して最薄状態下に於て当接し、上端部6を注出口として形成した内装体7を挿入固着せしめると共に容器主体1の下端開放周縁部8に、同質の底整体9を超音波溶着すべく構成してなる密封容器。

